

平成29年度事業計画書（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

近年、ナショナリズムが台頭する世界情勢のもと、ますます文化を相対化し他者への理解を促すアプローチとして民族学・文化人類学の重要性が高まっている。

定款において当財団の目的は、「民族学・文化人類学等の振興を図るため、国立民族学博物館等関係諸機関と連携しその普及に努める。それらの活動を通して人類の多様な社会や文化に対する市民の理解と教養を培い、社会の発展に寄与する。」と定められ、その目的を達成するための各種事業を推進し、また文化振興や次世代育成等含め、さまざまな社会貢献活動に取り組んでいる。

平成29年度は、国立民族学博物館（みんぱく）開館・友の会発足40周年を迎え、「みんぱく大集合」をはじめとする記念事業を展開し、あらためて多くの方々に関心をもっていただく機会を創出する。

1.民族学・文化人類学等普及事業

一般市民を対象に、民族学・文化人類学の普及のため、国内唯一の民族学・文化人類学の研究センターである国立民族学博物館の協力のもと、学術情報をわかりやすく提供する各種事業を企画・実施する。

- 1) 国立民族学博物館収蔵資料「梅棹忠夫アーカイブズ」の整理及びデータの整備への協力
膨大な梅棹忠夫アーカイブズ資料を整理し、総合的に関連付けた基礎データを作成。このデータは、研究者による内容把握や相互関連等の研究に資するとともに、最終的には、日本の民族学研究史、探検史、梅棹忠夫の学問体系の成立過程の解明等に関する研究者の分析結果を反映できる、参加型・成長型の梅棹忠夫デジタルアーカイブズ構築の基本情報となるものである。
- 2) 民族学・文化人類学の研究促進・普及を目的とした図書の企画・編集・発行
家庭学術雑誌『季刊民族学』4号（160号～163号）の編集、発行及び集広をおこなう。
- 3) 国立民族学博物館、及び民族学・文化人類学の普及を目的とした各種講演会及びセミナー等の企画・運営
別紙1：平成29年度 講演会等企画内容(案)参照

2.国立民族学博物館利用促進事業

国立民族学博物館の利用の促進を目的として、一般市民を対象に、各種協力事業を実施することにより利用者の便宜を図る。

- 1) 国立民族学博物館の展示理解向上及び普及のための教材制作事業
国立民族学博物館本館展示 新装版『展示ガイド』の編集・制作（受託事業）
- 2) 国立民族学博物館の展示理解向上のための教材頒布、及び広報普及事業としてのミュージアム・ショップの運営事業

平成 29 年度ミュージアム・ショップ事業計画

- ① 国立民族学博物館 本館展示の『展示ガイド』、特別展及び企画展の解説書、
『月刊みんぱく』、『研究報告』、『民博通信』等国立民族学博物館の刊行物の頒布
- ② 国立民族学博物館の映像資料の複製発行及び頒布
- ③ 国立民族学博物館オリジナルグッズの開発・販売
展示品のレプリカ、カレンダー、ポストカード、Tシャツ、クッキー、クリアファイル、
スタンプ、トートバッグ、ステッカー、鉛筆、ノートブック、レターセット等
- ④ 現地産民族資料及び民族学・文化人類学関連図書の頒布

3) 国立民族学博物館の普及事業

- ① 「国立民族学博物館友の会」の運営、及び会員の増強
「国立民族学博物館友の会ニュース」の制作・発行
- ② 国立民族学博物館開館及び友の会発足 40 周年記念事業の実施 別紙 2 参照
- ③ 国立民族学博物館キャンパスメンバーズ等の運営
- ④ 国立民族学博物館広報誌『月刊みんぱく』の編集協力・制作及び編集事務（受託事業）

4) 国立民族学博物館来館者の学習支援事業

- ① 展示案内学習支援等業務（受託事業）
展示及び展示資料に関する情報提供・案内・学習支援、各展示場の施設・設備の案内、
看視業務をおこない、来館者への研究成果の情報提供を有効におこなう業務
- ② 研究資料整理・情報化及び利用管理業務（受託事業）
標本資料及び映像・音響資料に関する情報の作成及び資料の整理等をおこなうとともに、
情報サービス、展示準備・展示運営のための資料管理及び情報の作成・管理等業務
- ③ 民族学資料共同利用窓口業務（受託事業）
国立民族学博物館民族学資料（標本資料、文献図書資料、オリジナル映像・音響資料
及び研究アーカイブズ資料）について館内外からの問い合わせに対応する窓口業務
- ④ 関連催し物の開催支援及び運営事業（受託事業）

5) 国立民族学博物館活動に協力する事業

国立民族学博物館開館 40 周年記念特別展「ビーズ — つなぐ・かざる・みせる」、「よみがえれ！シーボルトの日本博物館」、及び企画展「カナダ先住民の文化の力—過去、現在、未来」に対する協力として各種広報活動をおこなう。

3. 博物館活動支援及び調査研究事業

博物館に集積された知的財産を活用するプログラムを企画し、そのあり方を調査研究するとともに博物館活動を支援する。

1) 博物館に集積された資料と情報の活用方法及び博物館等の連携のあり方に関する調査研究

- ① 出前授業プログラム開発及び普及

- ② 各地の博物館等を活用する巡回展：国立民族学博物館収蔵資料からなる巡回展を地方で開催することで、国際的にも価値の高い民族学的資料を有効に活用するとともに、多様性と共通性を知ってもらい、異文化理解について考えてもらうことを目的としている。

巡回展「イメージの力 — 国立民族学博物館コレクションにさぐる(仮)」別紙3参照

開催館：石川県立歴史博物館

開催期間：7月22日(土)～9月3日(日)

2) 博物館運営や展示のあり方に関する調査研究

- ① 指定管理者制度における博物館運営に関する調査研究
- ② 巡回展のための什器に関する調査
- ③ 博物館におけるミュージアム・ショップの役割に関する調査研究

3) 各地の博物館展示案内等の編集業務

『東北歴史博物館展示案内』（日本生命財団より受託。平成30年2月完成予定）

4. 地域活性化・文化振興協力事業

多様な文化の振興をめざし、各種文化活動に協力する。

1) 「松下幸之助花の万博記念賞」選考に関する業務（松下幸之助記念財団より受託）

第26回「松下幸之助花の万博記念賞」選考に関する業務を受託し実施する。

「松下幸之助花の万博記念賞」：花の万博の基本理念「自然と人間の共生」の実現に貢献する、すぐれた学術研究や実践活動を顕彰している。

2) 日本展示学会の事務業務

「日本展示学会」の事務業務を受託し実施する。

「日本展示学会」：展示に関する研究を、技術論だけでなく、社会的・文化的な観点からもひろく研究することを目的とした学会。

1982年に、国立民族学博物館において設立された。

3) 同人雑誌『千里眼』の編集・発行

『千里眼』：千里地域に居住あるいは仕事場をもつ知識人による同人雑誌。

第138号～第141号の4号の編集を受託し発行する。

平成 29 年度 講演会等企画内容 (案)

1) 国立民族学博物館友の会講演会

開催日時：毎月第 1 土曜日、13:30 ~15:30 (見学会もしくは懇談会等を含む)

会場：国立民族学博物館

通算回数 (開催日)：「演題」 / 講師(所属)

- 第 465 回 4 月 1 日 (土) [開館 40 周年記念特別展「ビーズ」関連]
つなぐ・かざる・みせるービーズにさぐる人類の多様な営み
池谷和信 (民博教授)
- 第 466 回 5 月 6 日 (土) [手話言語学研究部門プロジェクト関連]
第二言語としての日本手話ー実感・体感の手話言語案内
飯泉菜穂子 (民博特任准教授)
- 第 467 回 6 月 3 日 (土) [みんぱく名誉教授シリーズ]
人類学のなかの遊牧
松原正毅 (民博名誉教授/坂の上の雲ミュージアム館長)
- 第 468 回 7 月 1 日 (土)
文明の転換点における博物館 (仮)
吉田憲司 (民博教授)
- 第 469 回 8 月 5 日 (土) [みんぱく名誉教授シリーズ]
万博とニュータウン (仮)
中牧弘允 (民博名誉教授/吹田市立博物館長)
- 第 470 回 9 月 2 日 (土)
[開館 40 周年記念特別展「よみがえれ！シーボルトの日本博物館」関連]
シーボルトが収集した日本文化 (仮)
佐々木史郎 (国立アイヌ民族博物館設立準備室主幹)
- 第 471 回 10 月 7 日 (土)
[開館 40 周年記念企画展「カナダ先住民の文化の力ー過去、現在、未来」関連]
カナダ先住民の文化の力 (仮) 岸上伸啓 (民博教授)
- 第 472 回 11 月 4 日 (土)
みんぱく大集合 挨拶 小山修三 (民博名誉教授/千里文化財団理事長)
対談「22 世紀に向かう国立民族学博物館 (仮)」
吉田憲司 (民博教授) / ※調整中
- 第 473 回 12 月 2 日 (土) [第 90 回民族学研修の旅関連]
家屋からみるインドネシア (仮) 佐藤浩司 (民博准教授)
- 第 474 回 平成 30 年 1 月 6 日 (土) [みんぱく名誉教授シリーズ]
梅棹忠夫と山内丸山遺跡 (仮) 小山修三 (民博名誉教授/千里文化財団理事長)
- 第 475 回 平成 30 年 2 月 3 日 (土)
伝承音楽から新しい音楽の創造 (仮) 川瀬 慈 (民博助教)
- 第 476 回 平成 30 年 3 月 3 日 (土) ※調整中

【東京他】 会場：モンベル御徒町 4F サロン（予定）
開催日時：不定期、13：30～15：30（懇談会等を含む）
通算回数（開催日）：「演題」 / 講師(所属)

- 第 118 回 5 月 13 日（土）[第 89 回民族学研修の旅関連]
モンゴル高原における遊牧民の遺産
小長谷有紀（人間文化研究機構理事/民博併任教授）
- 第 119 回 7 月 15 日（土）
文明の転換点における博物館（仮）吉田憲司（民博教授）
- 第 120 回 11 月下旬
家屋からみるインドネシア（仮）佐藤浩司（民博准教授）
- 第 121 回 平成 30 年 1 月 2 7 日（土）
在外カザフ人の移住—社会主義の時代を経て（仮）藤本透子（民博助教）

2) 国立民族学博物館友の会みんぱく見学会

大阪：土曜日 15:20～16:10、国立民族学博物館展示場で開催
通算回数（開催日）：「展示名」 / 講師(所属)

- 第 69 回（4 月 1 日）[特別展関連] 池谷和信（民博教授）
第 70 回（9 月 2 日）[特別展関連] 佐々木史郎（国立アイヌ民族博物館設立準備室主幹）
第 71 回（10 月 7 日）[企画展関連] 岸上伸啓（民博教授）

3) 国立民族学博物館友の会体験セミナー

通算回数（開催日）：「演題」 / 講師(所属) / 訪問地 / 内容

第 75 回（7 月：2 日間）

「三次の鵜飼漁見学（仮）」同行講師：卯田宗平（民博准教授）訪問先：広島

三次鵜飼の特長は、鵜匠が操る手綱が全国で一番長く、ダイナミックな鵜の狩りが見られること、また鵜匠が前船頭も兼ね、一度に 8 羽もの鵜を統率することにある。鵜が鮎を捕える瞬間を逃さず船の行く手にも留意する伝統技を見学とともに、地域文化にも触れる。

第 76 回（9 月中旬：2 日間）

「日本の藍を訪ねる（仮）」同行講師 未定 訪問先：四国

紀元前 2000 年の昔から、世界各地の人びとに愛されてきた藍。一方では「ジャパン・ブルー」と呼ばれ、その色は日本人の代名詞ともなってきた。装飾のみならず防虫の効果もあり、日本各地で独自の色、模様を生み出してきた。すくも作りの時期にあわせて染織・生育の現場を訪ねる。また発酵という観点からも注目したい。あわせて、阿波人形浄瑠璃も見学する。

第 77 回（12 月中旬予定：2 日間）

「長崎シーボルト記念館を訪ねて（仮）」同行講師：未定 訪問先：長崎県

シーボルトは、出島のオランダ商館付医師として来日し、江戸時代の日本に西洋近代医学や博物学を伝え、多くの門弟たちを輩出し、日本の近代化に大きく貢献したことで知られている。シーボルトの偉業を顕彰するためにシーボルト宅（鳴滝塾）跡に隣接する場所に設置された記念館などを訪問する。

4) 国立民族学博物館友の会民族学研修の旅

通算回数(開催日): 「演題」/ 訪問地 / 講師(所属) / 内容

第89回(8月7日～14日:8日間)

「モンゴル、遊牧の民に出会う

— 揺籃の地オルホン川上流域と草原都市ウランバートルを訪ねる」 訪問地: モンゴル

同行講師: 小長谷有紀(人間文化研究機構理事/民博併任教授)

イチホルローギーン・ルハグバスレン(モンゴル科学技術大学教授)

モンゴル高原では様々な民族が主役の座を交代しながら、遊牧文明が維持されてきた。遊牧とは、乾燥した気候にあわせて動物を多角的に利用する生活であり、移動によって自然や社会の変化に対応する柔軟性を備えている。生活の知恵や移動精神を受け継ぐモンゴル遊牧民の暮らしを探るべく、ウランバートルとオルホン渓谷周辺(民族興亡の舞台となった土地。現在も遊牧を営む人びとが暮らす。ユネスコ世界文化遺産に史跡群が登録)を中心に訪ねる。

第90回(平成30年3月中旬予定)

「神とともに住まう家 — インドネシア・ニアス島の伝統家屋をめぐる(仮)」

同行講師: 佐藤浩司(民博准教授) 訪問先: インドネシア

インドネシア・ニアス島の住居は、人間ではなく祖霊が住まう家だと考えられており、集落ごとに個性的な木造家屋が残っている。集落をめぐりながら、文化遺産として、そして観光資源としての伝統家屋について考える。

5) 国立民族学博物館友の会午餐会 ※国立民族学博物館維持会員対象

開館及び友の会発足40周年記念 2回開催予定

第202回: 7月6日(木) 文明の転換点における博物館(仮) 吉田憲司(民博教授)

第203回: 10月 ※調整中

6) 外部広報事業

①カレッジシアター「地球探究紀行」の企画及び開催協力

国立民族学博物館の様々な研究(コンテンツ)を、大阪南の玄関口に位置し注目されているあべのハルカス近鉄本店を会場とし、わかりやすくたのしめるプログラムを提供する。

主催: 産経新聞社、共催: 近鉄文化サロン、スペース9/特別協力: 民博、千里文化財団

開催期間: 4月～平成30年3月(8月、12月をのぞく原則第2、4水曜日/13時～14時半) 全20回で関連催しを実施。

登壇者(敬称略/順不同): 林勲男、丹羽典生、鈴木紀、宇田川妙子、森明子、鈴木七美、三島禎子、川瀬慈、吉岡乾、三尾稔、福岡正太、櫻永真佐夫、山中由里子、菅瀬晶子、野林厚志、池谷和信、横山廣子、寺村裕史、卯田宗平、吉田憲司

②開館40周年記念 ブックフェアの企画及び開催協力

国立民族学博物館開館40周年記念ブックフェアとして、新装版『展示案内』、図録及び研究報告等みんぱく関連書籍とともに、オリジナルグッズも同時に紹介する。

国立民族学博物館開館・友の会発足40周年記念事業

1. 「みんなく大集合」

国立民族学博物館開館・友の会発足40周年を迎え、新しい世紀に向かう国立民族学博物館をテーマに一般公開型の対談を開催。多くの方々に関心をもっていただく機会とする。会員の方へは、研究者との交流の場も設け、博物館支援について改めて考えてもらうことを目的としている。

開催日：11月4日（土）

主催：千里文化財団

共催：国立民族学博物館 ※予定

会場：国立民族学博物館 講堂

開催内容：11：00 展示場、各施設の見学

12：00 昼食

13：30 挨拶 小山修三（千里文化財団理事長/民博名誉教授）

対談 テーマ「22世紀に向かう国立民族学博物館」

吉田憲司（民博教授） / ※調整中

15：00 休憩

15：30 民博研究者と会員との交流会

17：30 終了 予定

記念品：新版『展示案内』、オリジナルグッズ

2. 「みんなくウィークエンド・サロン — 研究者と話そう」

国立民族学博物館の研究者が展示場で「現在取り組んでいる研究」「調査している地域（国）の最新情報」「みんなくの展示資料」等、多彩な話題をわかりやすく提供するプログラム。記念事業として、千里文化財団共催で当日運営業務を担い開催に協力する。

開催日：4月～平成30年3月 毎週日曜日 14：30～（30～60分）

主催：国立民族学博物館

共催：千里文化財団 ※予定

会場：国立民族学博物館 本館展示場又は特別展示館

国立民族学博物館巡回展
石川県立歴史博物館夏季特別展
「イメージの力 — 国立民族学博物館コレクションにさぐる（仮）」開催概要（案）

趣 旨：国立民族学博物館（みんぱく）は、大阪吹田市の万博記念公園内に創設され、文化人類学・民族学の研究活動と博物館活動を一体的におこない、40万点にせまる標本資料などを収集、整理、保存し、研究に取り組んでいる。本展は、みんぱくの膨大なコレクションの中から選りすぐられた造形物を展覧し、人間の歴史上生み出された、様々なイメージの普遍性を新たな視点から探求しようという試みで、世界各地の神像や仮面をはじめ、民族衣装、墓標、玩具など約300点が出品される。それらを地域や時代などに分類するのではなく、人びとが作り出したイメージに備わる造形性や効果、機能に着目して提示する。巡回展を地方で開催することで国際的にも価値の高い民族学資料を有効に活用するとともに、本展覧会を通して観覧者に、人間の生み出す「イメージ」の国際的な多様性と共通性を知ってもらい、異文化理解について考えてもらうことを目的としている。

会 期：7月22日（土）～9月3日（日） ※休館日10月10日を除く月曜日、10月11日（火）

主 催：石川県立歴史博物館、国立民族学博物館、千里文化財団

企 画：国立民族学博物館、国立新美術館、日本文化人類学会

開館時間：午前9時～午後5時（入館午後4時30分まで）

観覧料：未定 参考）平成28年度夏季特別展の料金
一般700円（560円）、大学生560円（450円）、高校生以下無料
※（ ）内は20名以上の団体料金

関連講演会： 7月23日（土）「イメージの力（仮）」
講師 吉田憲司（民博教授）

関連ワークショップ： 8月5日（土）若しくは 8月6日（日）
講師 上羽陽子（民博准教授）

平成29年度収支予算書（正味財産増減計算書）

（平成29年4月1日から平成30年3月31日）

（単位：円）

	予算額 (A)	前年度予算額 (B)	増減 (A-B)
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1)経常収益			
基本財産運用益	6,000	50,000	△ 44,000
基本財産受取利息	6,000	50,000	△ 44,000
受取会費	43,050,000	43,050,000	0
維持会員	14,500,000	14,500,000	0
正会員	25,000,000	25,000,000	0
家族会員	300,000	300,000	0
キャンパスメンバーズ*	2,500,000	2,500,000	0
フリーパス会員	750,000	750,000	0
事業収益	253,943,000	252,890,000	1,053,000
事業収益	54,843,000	52,290,000	2,553,000
受託事業収益	198,500,000	200,000,000	△ 1,500,000
広告収益	600,000	600,000	0
受取補助金等	3,000,000	4,000,000	△ 1,000,000
受取助成金	3,000,000	4,000,000	△ 1,000,000
雑収益	1,000	10,000	△ 9,000
受取利息	1,000	10,000	△ 9,000
経常収益計	300,000,000	300,000,000	0
(2)経常費用			
事業費	268,910,000	267,260,000	1,650,000
給料手当	121,800,000	120,800,000	1,000,000
臨時雇賃金	18,700,000	18,480,000	220,000
退職手当	10,000,000	10,000,000	0
法定福利費	21,800,000	21,470,000	330,000
福利厚生費	600,000	1,200,000	△ 600,000
旅費交通費	5,550,000	5,550,000	0
通信運搬費	9,805,000	9,955,000	△ 150,000
減価償却費	45,000	0	45,000
事務委託料	1,500,000	1,500,000	0
印刷製本費	14,600,000	15,600,000	△ 1,000,000
諸謝金	2,200,000	1,675,000	525,000
会議費	1,650,000	570,000	1,080,000
光熱水費	500,000	450,000	50,000

	予算額 (A)	前年度予算額 (B)	増減 (A-B)
消耗品費	810,000	810,000	0
負担金	12,600,000	12,100,000	500,000
原稿写真委託報酬	8,100,000	9,650,000	△ 1,550,000
支払手数料	650,000	800,000	△ 150,000
賃借料	2,300,000	2,200,000	100,000
修繕費	100,000	100,000	0
著作権等使用料	100,000	100,000	0
教材等制作購入費	34,000,000	34,000,000	0
教材出版物等棚卸差額	1,250,000	0	1,250,000
館内サービス関係費	250,000	250,000	0
管理費	28,910,000	30,390,000	△ 1,480,000
給料手当	14,100,000	14,700,000	△ 600,000
臨時雇賃金	200,000	200,000	0
退職手当	4,700,000	4,700,000	0
法定福利費	2,200,000	2,300,000	△ 100,000
福利厚生費	210,000	210,000	0
旅費交通費	200,000	200,000	0
通信運搬費	600,000	450,000	150,000
印刷製本費	200,000	550,000	△ 350,000
諸謝金	2,100,000	2,280,000	△ 180,000
会議費	250,000	380,000	△ 130,000
光熱水費	100,000	220,000	△ 120,000
消耗品費	650,000	700,000	△ 50,000
負担金	250,000	250,000	0
原稿写真委託報酬	300,000	300,000	0
支払手数料	350,000	350,000	0
賃借料	2,400,000	2,400,000	0
修繕費	100,000	200,000	△ 100,000
経常費用計	297,820,000	297,650,000	170,000
当期経常増減額	2,180,000	2,350,000	△ 170,000
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	2,180,000	2,350,000	△ 170,000
一般正味財産期首残高	16,105,796	13,755,796	2,350,000
一般正味財産期末残高	18,285,796	16,105,796	2,180,000
Ⅱ 正味財産期末残高	18,285,796	16,105,796	2,180,000